

この街 あの人 この人

プロボクシングWBC世界フェザー級王者に輝く 栗生隆寛さん



夢をかなえた戦士

3月12日、後楽園ホール（東京都文京区）で、潤井戸出身のプロボクサー栗生隆寛さんがWBC（World Boxing Council・世界ボクシング評議会）世界フェザー級チャンピオンとなりました。試合は平成20年10月に同タイトル戦で敗れて以来の再戦。対戦相手を3対0の判定で下し、リベンジを果たしました。「世

界王者は子どものころからの夢でした」と語る栗生さん。メキシコからチャンピオンベルトが届いた日は興奮して眠れず、一晩中ベルトを磨いていたそうです。

自信と謙虚さを併せ持つ王者

「戦うことを怖いと感じたことは一度もありません」と言い切る栗生さん。「絶対に勝つ自信がありますから」。そう語る表情には、積み重ねた練習から得た自信があらわれています。

普段の練習は10kmのロードワークとジムでのトレーニング。「不言実行が格好いい」と地道な努力を重ねています。

見事王座を獲得しましたが、栗生さんは決しておごりません。「僕は技術的にも精神的にも未熟。もっと成長したい」。

また父親の広幸さんをはじめ、周囲の支えについては「親父は精神的に大きな支え。親父には一生勝てません」。そして「応援してくださる地域の皆さんには本当に感謝しています。これからも一緒に勝利の喜びを分かち合いたい」と続け



栄誉をたたえ3月30日に市民栄誉賞が贈られました。

より一層の高みを目指して

栗生さんはボクシングの魅力を「相手を自分の狙いどおりに動かして勝つこと」と話します。今後の目標は「より強くなること。すべての人が強いと認めるボクサーになりたい」。栗生さんの挑戦は始まったばかりです。

～プロフィール～

本市で生まれ、父親の指導のもと3歳からボクシングを開始。市立習志野高校で史上初の高校6冠を達成。平成15年にプロデビュー。平成19年に日本フェザー級チャンピオンとなる（こまでアマチュア時代から72戦無敗）。平成20年10月にWBC世界フェザー級タイトル戦に初挑戦。チャンピオンのオスカー・ラリオス選手に判定負け。平成21年3月に再挑戦し、第39代WBC世界フェザー級チャンピオンとなる。現在25歳。

Art Collection



新しい球体
(深沢幸雄・1958年作)

自分の苦悩を超えて一皮むけることによって、新たな一步を踏み出そうとしているかのようです。この作品が生まれた1958年に深沢幸雄氏は、日本版画協会準会員に推挙され、春陽会賞受賞など、銅版画家としての礎も固まってきました。6月下旬まで市役所で展示しています。

問合せ Web ふるさと文化課 ☎ 9853

自分の苦悩を超えて一皮むけることによって、新たな一步を踏み出そうとしているかのようです。

この作品が生まれた1958年に深沢幸雄氏は、日本版画協会準会員に推挙され、春陽会賞受賞など、銅版

Kid's stage



井上 智暖ちゃん (2歳)

「5歳上のお兄ちゃんが好き。お兄ちゃんといっしょに外で遊ぶのが大好きな元気いっぱい女の子です」

いちはら

歴史物語

13 廣瀬蘆竹の明治風俗 図絵『笠上山観音春色』

日帰りでお参り

蘆竹は市原の人たちと縁の深い笠森観音や鹿野山といった市の神社仏閣や名所旧跡も描いています。最も近いところでは、

椎津地区の南隣、現在の袖ヶ浦市久保田にある笠上観音正福寺です。市原の人たちは『笠上観音』と呼んで親しみ、近年まで、ノリ採りが終わると、子供連れでお参りしていたそうです。

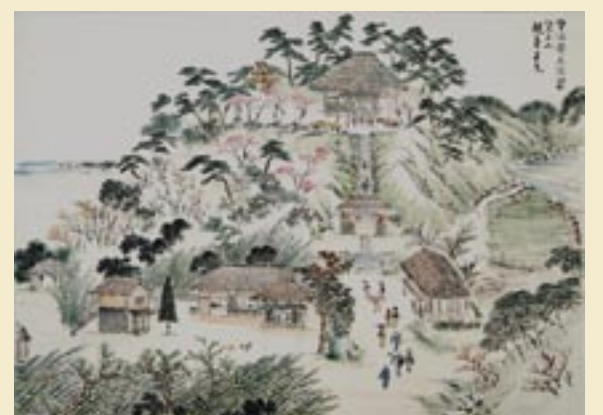
天然痘への恐れと祈り

笠上は瘡神に通じ、瘡瘡に対して御利益があると信じられ

てきました。なかでも天然痘は、明治になって種痘が普及するまで危険な伝染病でした。治ってもあばたが残るので、日本人にはあばた顔の人が多く、幕末に日本を訪れた外国人も書き残しています。

心のなかの風景を描く

笠上観音像は明治初めに笠上山から現在の正福寺に移されたそうです。蘆竹はそれ以前の観音堂の春の情景を思い出して描いているようです。現在、その場所は削られて跡形もありません。昔、参道の左側に建っていたといわれる『正嘉二年(一一五八)』と刻まれた県内最



『笠上山観音春色』

古の紀年銘板碑も行方がわかりません。蘆竹は記憶に基づいて描いた絵を『写意』と断っていますが、失われた景観の貴重な記録となっています。

※今回のいちはら歴史物語には、斎藤信子（所蔵者）、青柳至彦の各氏に協力をいただきました。

問合せ ふるさと文化課 ☎ 9853